

京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書（終了）

1. 研究課題

（和文）ヨーロッパ現代思想と政治

（英文）European Contemporary Philosophy and Politics

2. 研究代表者氏名

市田良彦

3. 研究期間

2011年04月 - 2015年03月（4年度目）

4. 研究目的

本研究の目的は、ヨーロッパ現代思想と「政治」の関係を問い直すことにある。ここでヨーロッパ現代思想とは、1968年前後のフランスを中心に勃興し、その後「ポストモダン」ないし「ポスト構造主義」などとも呼ばれてきた思想的諸潮流（フーコー、ドゥルーズ、デリダら）を指す。「新左翼」の興隆とも軌を一にして現れたこうした論者たちは、1990年代以来、ソ連圏の崩壊とEUの成立という情勢の変化にともない、あらためて「政治」との関係を主要な考察対象としつつ新たな展開を見せている。その事情は日本でも、バディウ、バリバル、ネグリ、ランシエールといった思想家たちの仕事を通じて知られていよう。こうした動向はいかなる思想的系譜の上に立ち、いかなる「政治」状況のなかから出てきたのか。1968年以來のヨーロッパの現代思想において、そもそも「政治」とはどのような営みとして把握され、「思想」や「哲学」との間はいかなる理論的・実践的な関係が提起されてきたのか。本研究はこうした問いを通じて、ヨーロッパにかぎらず広く政治をめぐる思考の現状に介入することを目指している。

6. 研究成果の概要

4年間で計22回（27日）の研究会、計7回の公開セミナーと国際研究集会・講演会、計3回のシンポジウム（うち2回は国際シンポジウム）を開催した。研究会では拠点内外の研究者20数名が常時参加し、共同研究の三つの主要な問題系となるマルクス主義（政治と経済・歴史の関係性）・精神分析（構造と主体／主体化）・政治哲学（代議制民主主義を規範化する現代政治理論）について最新の研究状況を踏まえた国際水準の議論を展開した。班員は所属学会における現代政治思想研究を推進し、多数の学会員と学問分野の研究者が共同で研究に取り組む学際性を発揮しており、とくに思想史研究の分野で『思想』『現代思想』『情況』など、注目度の高い雑誌媒体に多数の寄稿を重ねたほか、著作の出版を通じて日本における現代思想と政治についての研究をリードした。国際企画ではE. バリバル、H. ハル

トゥーニアンなど著名な思想史研究者を招聘し、現代政治思想の最先端の理論状況を一般に広く紹介することはもちろん、班員からの積極的な討論を交えることで日本・アメリカ・ヨーロッパ間の政治思想研究・現代哲学研究のネットワークを構築した。

8. 共同研究会に関連した公表実績

【主な出版 著作・論文】小泉義之『ドゥルーズと狂気』（河出書房新社、2014年）、立木康介「マルクスに回帰するラカン（一九六六-七三）」（『思想』2015年1月号）、佐藤嘉幸（吉幸）「立憲デモクラシーの危機と例外状態」（『思想』2014年12月号）【主な出版 翻訳】ルイ・アルチュセール／市田良彦・王寺賢太訳『政治と歴史』（平凡社、2015年）、ミシェル・フーコー／市田良彦・上尾真道・信友建志・箱田徹訳『悪をなし真実を言う』（河出書房新社、2014年）、ジャック・ランシエール／市田良彦・上尾真道・信友建志・箱田徹訳『平等の方法』（航思社、2014年）【国際シンポジウム】「ポスト68年の思想と政治—〈階級闘争〉から〈社会運動〉へ?」（2014年2月1日、於：京都大学人文科学研究所、司会：市田良彦／長原豊、報告：長崎浩／桂秀実／ギャビン・ウォーカー）「Pourvu que ça dure... : 政治・主体・〈現代思想〉」（2015年1月12日、於：京都大学百周年時計台記念館2F国際交流ホール、登壇：市田良彦／エチエンヌ・バリバル／ブルーノ・ボスティールス）【国際講演会・研究集会】「革命・歴史・想像力」（2014年11月13日・14日、於：京都大学人文科学研究所、講演：ハリー・ハルトゥーニアン／クリスティン・ロス）、「Ce que nous devons à la lecture d' Étienne Balibar : Individualité et communauté, de Rousseau à Blanchot」（2015年1月17日、於：京都大学人文科学研究所、発表：上田和彦／佐藤淳二／佐藤吉幸／ガブリエル・ラディカ、コメント：エチエンヌ・バリバル）【電子データベース】archives.mai68（フランス68年5月関連一次資料の電子化・公開プロジェクト）
<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~archives-mai68/index.php>

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

2015年度に「ヨーロッパ現代思想と政治」共同研究班の成果論集として『現代思想と政治：資本主義・精神分析・哲学』を出版する（編者：市田良彦、王寺賢太）。また「ヨーロッパ現代思想と政治」共同研究班と科学研究費基盤研究(B)「『現代思想』と政治—マルクス主義・精神分析・政治哲学を軸とする歴史的・理論的研究」との共催で2015年1月に開催した国際シンポジウム「Pourvu que ça dure... : 政治・主体・〈現代思想〉」と研究会「Ce que nous devons à la lecture d' Étienne Balibar : Individualité et communauté, de Rousseau à Blanchot」の記録を、欧文誌 ZINBUN No. 46 "Politique, Sujet et Philosophie contemporaine"として出版する（著者：市田良彦、E. バリバルほか）。このほか、2015年11月にはB. ボスティールス、A. バディウを招聘して京都大学百周年時計台記念館2F国際交流ホールで大規模な国際シンポジウムを開催する。